

令和5年度事業報告

安井保育園

1. はじめに

令和5年度は、第2次5カ年計画の最終年として、認定こども園への移行を実現しました。保育・教育はこれまで通り、子どもと保護者に寄り添い丁寧な保育を心掛けてきました。計画当初と比べて子どもを取り巻く状況は変化しています。西宮市内の子どもの人口減少は顕著になり、4月当初に0歳児が定員に満たない園も増えています。1号認定子どもの募集については、一般募集に頼ったため課題が残りました。引き続き状況を把握しながら、1号認定こどもの入園に向けてアピールしていきます。

2号3号認定子どもは、定員の122%の利用者数で始まりましたが、1号認定は定員をみたくすることはできませんでした。年齢別クラスを基本に、子どもと保護者に寄り添い、子どもの気持ちを大切にする保育を心掛けました。幼児、乳児クラスの担任が定期的に会議を持ち園児一人ひとりの発達に沿った関りを検討・実施しました。

一時預かりは0歳児と1歳児の利用が増え、3歳児以上児は、前年と比べて7月から9月の利用が減少しました。夏休み時に預かり保育を行う幼稚園が増えているため、前年比で減少したとおもわれます。

子育て支援では、園庭開放時は開始と同時に来園される方も多く、保護者同士のつながりもできました。体験保育の希望は0歳児、1歳児が多く、受け付け開始と同時に定員いっぱいになりました。次年度の入園に向けての園見学は9月までに18回行い、99名が参加されました。入園についての悩みや相談をされる方にも対応しました。初めてリトミック講座に安井地区の方を講師として依頼しました。今後も安井地区の自治会と協力して講座等を開催していきます。

人材育成については、保育士セミナー研修に延べ32人、キャリアアップ研修に延べ12人が参加しました。また、発達障害に関する研修に8人が参加しました。研修後は伝達講習を行い、情報を共有し、保育に活かすようにしました。幼児クラスと乳児クラスのクラス別にリーダーを配置しました。リーダー会議を定期的に行い、子どもの発達の様子、保育士の子どもの関り、職員間の連携などを話し合い、各クラス会議に反映させました。クラス会議では、対応で困っていることや保育のすすめ方など、率直に意見を出し合い、気持ちを新たに保育ができるようにしました。

保護者支援として、3月に保護者アンケートを取り約7割の方から回答をいただきました。感謝の気持ちを表してくださる一方、土曜日保育や行事などへの要望もありました。今後も継続して実施し、保護者の声を大切にしていきます。

施設整備では、4歳児5歳児の保育室の床暖房を設置しました。園庭の滑り台を撤去しました。エアコン2台を更新し、子どもたちが快適に過ごせるようにしました。

2. 事業報告

1) 安定した施設運営の維持に努めます

(ア) 2号認定・3号認定の利用者の受け入れ人数108名(定員90名)とし、120%を維持します。退園・転園予定がある場合は、早期に受け入れるよう手続きをすすめます。

⇒120%は維持しましたが、2歳児、3歳児、5歳児の各1名が途中退園しました。5歳児は9月に1号認定こども1名が入園しましたが、10月に2号認定に変わりました。

【2号3号認定】

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均(人)	前年度(人)
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11.3
1, 2歳	38	38	37	38	38	38	38	38	38	38	38	38	37.9	34
3歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
4, 5歳	40	40	39	39	39	39	40	40	40	40	40	40	39.3	39.8
合計(人)	110	110	108	109	109	109	110	110	110	110	110	110	109.5	104.8
利用率	122	122	120	121	121	121	122	122	122	122	122	122	121.5	
前年度	114.4	114.4	117.7	117.7	116.6	117.7	116.67	116.6	116.6	118.8	118.8	118.8	117.1	

(イ) 認定こども園としての初年度は1号認定の利用者を3名(定員6名)とします。

⇒問い合わせ、見学はありましたが入園に至ったのは3歳児と5歳児の1名のみになりました。

【1号認定】

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3歳	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.6
4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.1

(ウ) 1号認定の利用者受け入れを広報するため、ホームページ、Twitterを活用します。

⇒Twitterから情報を得ての問い合わせはありませんでした。10月からInstagramを活用しましたが、問い合わせはありませんでした。Instagramは各クラス、給食が順次担当し配信しました。関心が持てるように歌を入れるなど工夫しました。

(エ) 教育・保育の全体計画をもとに各年齢の年間計画を立案、実施、検証し課題を確認し再度実践します。

⇒年間計画に沿って、月案、週案を計画しています。週案は、クラス内で園児の様子を確認しながら計画、実施しました。各クラス週に1回は意見交換する時間を取り、週

案の振り返りを行い、次週につながるようにしました。

(オ) 学校安全計画をもとに、マニュアルを整備し、施設・設備、園外の環境の安全点検を行います。また、年齢に応じて安全指導を行い、保護者と情報を共有します。

⇒学校安全計画は、実施状況を毎月確認し、次月、次年度に生かすようにしました。

散歩の再開時には、再度注意事項を職員間で確認し、子どもたちにも約束事を伝えました。香櫨園浜に行く際には、地震・津波発生時の行動の確認を事前に行いました。

不審者情報については保護者に配信し注意喚起をしました。

(カ) 虐待防止、事故防止のマニュアルをもとに、学習会と振り返りを定期的に行い、保護者に信頼される教育・保育を提供します。

⇒虐待防止については、人権委員会が学習会を行い、全国保育士会のチェックリストによる振り返りを行いました。事故防止については、ヒヤリハット・事故報告書を速やかに提出し共有することで、同じことを繰り返さないようにしました。

(キ) 教育・保育は、各年齢に応じた遊びを中心に、身体づくり、出会い、仲間づくりを行い、卒園時には、生涯にとって必要な生きる力の基礎を身に付けるようにします。

⇒身体づくりとして、運動遊び、散歩、山登りを行いました。

(ク) 0歳児から2歳児は、愛情を十分に注ぎ、園が安心できる場所になり、保育士は安心できる存在になることで、自らやってみようとする気持ちを育みます。

⇒集団生活が初めての0歳児は、担任が丁寧にかかわることで、安心できるようにしました。子どもの気持ちをまず受け入れることで、自分の思いをいつでも出せるように心がけました。

(ケ) 3歳児から5歳児は、様々な経験をとおして、相手を思いやり、自らの意見を伝え、助け合う仲間になるよう教育・保育をすすめます。

⇒グループを作り一緒に生活することで、仲間のことも考えられるように声をかけ保育しました。4歳児、5歳児は、子どもたちで考え決め実行することをすすめました。遊びや生活をすすめるなかで困った時には担任がアドバイスすることで、グループやクラスで話し合い、相談することが定着してきました。

(コ) 各年齢の課題と1年間の目標を明確にし、園児、保護者、担任と一緒に保育をすすめます。

⇒保育内容、すすめ方を検証し、全体に広めるために外部講師による保育指導を各クラス1回ずつ行いました。行事などの内容をその日のうちにドキュメンテーションで保護者に伝えました。幼児クラスはその日の連絡ノートでも配信しました。

(サ) 生活加配保育士を3歳児クラスに1名配置します。フリー保育士を幼児クラスに配置します。

⇒保護者と個別の情報が必要な場合については、個別のノートで日々の様子を伝え、連携を取りました。保護者の要望に沿って、個別懇談を行い、今後のことや必要な支援などについて、保護者と子どもの不安が軽減するようにしました。

(シ) 各年齢に沿って、「命の安全教育」、をすすめ、お互いを大切にする気持ちを育てます。

⇒各クラスでプライベートゾーンについて説明し、水着で隠れるところは、ほかの人には見せない、触らせないことを繰り返し伝えました。乳児には、基本的な関りとして、まず声かけをすることを継続しました。

(ス) 年末保育を夙川さくら保育園と共同で行います。

⇒保護者にアンケートを取り希望者を募り、乳児1名、幼児に2名の利用がありました。

2) 保育の質の向上のために

(ア) 全職員が園の経営状況を把握し、事業計画、進捗状況等の園内研修を持ち、共通理解します。

⇒年度初めに事業計画の説明会を行いました。10月に事業計画の進捗状況、利用率や人件費についての説明を行い、節電やペーパーレスなどの支出の削減を継続することが必要と伝え、光熱費削減のため事務はなるべく事務室で行うようにしました。

(イ) 安心・安全な給食の提供を行います。季節感のある給食、行事食、郷土食を提供することで食と生活を結びつける食育の取り組みをすすめます。

⇒行事食は「うんどうかい応援メニュー」など園児が行事に主体的に取り組むことができるよう食の面から支えました。郷土食は、各地域の食を知ることで、食への関心を高められるようにしました。5歳児には、卒園前にもう一度食べたいメニューをリクエストしてもらい再度提供しました。参観時に、保護者に試食してもらい家庭での参考になるようにしました。保護者からメニューのレシピの依頼に応えブログで配信しました。

(ウ) 保護者アンケート、職員アンケートをもとに保育園の自己評価を行い公表します。

⇒保護者アンケートを3月に保護者アンケートを取りました。保育園の自己評価を行いました。

(エ) 年2回の理念行動評価を活用した職員の自己評価、面談を行います。

⇒1回目の自己評価を行い、後半に2回の面談を行い次年度に向けての意向についてもきき取りました。嘱託職員、パート職員は自己評価表を記入し、もとに面談を行い、次年度の役割についても意向を確認しました。

(オ) 職員同士がお互いを尊重し合って働く職場を作るため、小集団での学習会や意見交換をおこないます。

⇒各クラスを中心に学習会をすすめました。4つの委員会が合計9回の学習会を行いました。12月、1月にはテーマ別の学習会を行いました。4~5人の小グループで行い、意見を出しやすくしました。保育士各々の思いを出し合い、お互いを認めあい、保育ができるようにしました。2月には、保育士による「児童生徒性暴力等防止に関する基本方針」についての学習会を行い、子どもへの気になる声かけなどがあれば、お互いに注意しあうことを伝えました。

(カ) 人権委員会による振り返りチェックリストを年に3回行い、保育士自身の保育、関わりを振り返ります。

⇒不適切な関りの防止について職員会議で確認しました。少人数の研修会を実施し意見を出し合いました。テキストの不適切な保育の事例をもとに、自分ならどう伝えるかななどの意見を出し合いました。子どもの言動を否定するのではなく、肯定的な声かけに言い換えることを学び、実際に言い換えてみました。

(キ) 等級別理念行動と職種別能力基準、担当クラス、委員会等の役割をもとに職員個人の目標を設定しスキルアップにつなげます。

⇒目標管理シートをもとに正規職員のスキルアップに努めました。2か月に1回役職が進捗状況の確認と今後についての面談をしました。役職は面談シートを作成し、前回の面談内容をもとに面談を行い、目標達成と自己の成長につながるようにしました。

(ク) 経験年数に応じてキャリアアップ研修を受講します。経験年数が3年から5年目の正規保育士、嘱託保育士は1分野を受講し修了できるようにします。

⇒キャリアアップ研修は、延べ12名が4分野の講義を受講しました。

(ケ) 「障がい児への対応」、「医療的ケアを必要とする子どもへの対応」等について、北山学園との交換研修、他の保育園の実践例をもとに学習します。

⇒西宮市の自立支援協議会作成の医療的ケア児の通園する様子のビデオを参考に、安全に受け入れる方法を役職間で話し合いました。西宮市保育幼稚園支援課より受け入れについての説明をしていただき、第3次5か年計画の参考にしました。11月のつながりの公開保育時に、医療的ケア児受け入れを実施している他園の参加者とクラス運営の方法などの意見交換を行いました。医療的ケア児の訪問看護を行っている看護師から、保護者の思い、保育園への期待などを聞くことができました。

(コ) 夙川さくら保育園と担当クラスの交流、交換研修を積極的に行います。

⇒交換研修は、2名が参加しました。5歳児の担任は交流保育時に、子どもの様子や就学に向けての取り組みなどの情報交換を行いました。

(サ) 外部講師によるクラス別の保育指導と全体学習会を行い、各クラスの保育に生かします。

⇒外部講師による保育指導は7回おこない、全体学習会では、講師からの課題をもとに保育士が考え意見を出し合う場にしました。1月には2歳～5歳児のクラスが生活発表会の劇の指導を受けました。

(シ) 園内研修会は、各委員会、各職員が計画し定期的を実施します。

⇒防災委員会は、BCPについて、防犯研修（さすまたの使い方）等、安全管理委員会は、散歩、プール活動時の確認等、保健委員会は、嘔吐時の対応、心肺蘇生法の実地訓練等を行いました。

(ス) 発達の基礎を学ぶ「保育セミナー」研修に積極的に参加し、保育に生かします。

⇒保育セミナーには、延べ32名が参加し、職員会議で報告を行いました。7月には、全国保育合同研修会に4名がZOOMで参加しました。

(セ) 役職、乳児・幼児リーダーを中心に、保育指導やクラス単位での保育の振り返りを行い、発達段階に沿った保育を行います。

⇒幼児、乳児リーダーが中心になり、クラス内の意見を聞きながら行いました。保育士からテーマを募り、研修会を行いました。それぞれの対応の悩み、保護者との連携について意見交換しました。

3) 地域子育て支援及び地域との交流

(ア) 地域の高齢者の方との交流、高校生との交流を積極的に行います。

⇒9月にあそぼう会を行い安井町、寿町の老人会の13名の方が参加してくださいました。園児は、積極的に高齢者の方にコマまわし、鍵編み、折り紙などを教わりました。

10月に在園の3歳～5歳児の祖父母参観を行い、82名の方が来園されました。

(イ) 法人内の高齢者施設(甲寿園)、児童発達支援センター(北山学園)との交流を計画的に行います。

⇒甲寿園とは11月に行いました。北山学園とは感染症の流行等があり、5月、7月、11月の3回のみになりました。

(ウ) 中学生のトライやるウィーク(5月)を受け入れます。また、西宮市私立保育協会と協力し高校生のインターンシップを受け入れます。

⇒トライやるウィークは、卒園児の中学生5名が5日間来園し保育体験をしました。高校生のインターンシップの希望はありませんでした。卒園児の小学6年生3名、小学4年生5名の訪問がありました。

(エ) 青少年愛護協議会に参加し他団体と情報交流を行い、地域の子育て支援の為の協力関係を築いていきます。

⇒小学校や地域の幼稚園や民生委員の方などから情報を収集しました。民生委員の方に子育て支援講座、親子でリトミックの講師をしていただきました。

(オ) 安井地区のクリーン活動に定期的に参加します。

⇒12月のクリーン大作戦に参加し、歩道や溝の清掃を行いました。ごみ収集日に園の前のごみステーションの清掃を行いました。ダンボールの資源回収は継続しました。

(カ) 育児講座、保育体験、子育て相談、地域子育て新聞の発行、園庭開放、地域への情報提供を積極的に行い、入園希望につながるようにします。

⇒情報提供はブログ、よいこネット、Twitterを活用しました。ブログの閲覧による利用が多くありました。参加できない方には、園庭開放の案内をしました。園庭開放時に給食の試食を行うことで、家庭での食事の参考にさせていただきました。

(キ) Twitterを活用し、子育て支援事業の離乳食講座案内、一時預かり情報、災害時の避難スペース案内などを発信します。

⇒10月よりInstagramを開始し、子育て講座の配信は1件行いました。

(ク) 行事、合同避難訓練などの園行事への参加を近隣の皆様に呼びかけ、地域の保育園として、緊急時には協力体制等を取り合える関係となるようにします。

⇒11月に地震・津波を想定した避難訓練を行い、安井自治会と寿町自治会の方5名が、

園児の避難誘導に協力していただきました。

(ケ) 5歳児担当が「つながり担当者会」に参加し小学校や幼稚園との交流、研修会を持ち、円滑に就学できるよう園内で情報共有します。

⇒他園の研修会（11月）に2名が参加し、乳児保育を学び、伝達講習を行いました。11月の公開保育には、幼稚園と子ども園から2名の参加があり、5歳児クラスの保育や医療的ケア児の受け入れについての意見交換をしました。

(コ) 5歳児は、就学に向けて小学校の見学等を行い、小学校について知ることで就学に向けて不安が和らぐようにします。

⇒卒園児の小学生による「おにいちゃん、おねえちゃん先生」の取り組み時に、小学校の話の聞いたり、質問をすることで期待を膨らませました。11月に小学校の見学に行き卒園児とも会うことができ、小学校をより身近に感じることができました。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域交流	—	1	1	1	—	2	1	3	—	2	1	1	13回
育児相談	2	10	5	9	2	11	13	4	6	5	5	5	77組
体験保育	0	0	2	4	0	9	5	5	0	0	0	0	25組
子育て教室	—	—	—	9	—	9	9	9	9	0	0	0	45組
育児講座	—	13	19	—	—	8	6	11	6	0	0	0	63名
情報誌	230	—	230	—	230	—	230	—	234	—	210	—	1364部
園庭開放	19	28	17	18	—	—	47	41	30	21	37	47	305名
よいこネット	8	8	8	4	8	8	3	4	3	3	3	3	63回
子ども図書館	4	5	5	4	0	0	5	4	3	4	6	4	44回

4) 安心・安全・快適な環境づくり

(ア) 学校保健計画をもとに基本的感染防止対策を継続し、園での生活が快適にできるように環境を整えます。

⇒保健委員が中心になり、感染防止対策として学習会を企画し、保護者に注意喚起しました。職員には、ノロウイルス感染症発生時の対応をシミュレーションしました。

(イ) 毎月、様々な災害に対応できるよう避難訓練と消火訓練を行います。保育中の地震発生や夙川の洪水を想定した図上訓練を行います。

⇒避難訓練は、日にちのみ職員に知らせ、臨機応変に対応できるようにしました。不審者対応の訓練後には各自の対応を振り返り改善点を出し合いました。給食室の委託業者の職員の火災発生時の図上訓練を行いました。不審者対応訓練はパターンを変えて行いました。

(ウ) 毎月、施設内の安全点検を行い、複数の職員が目視で安全確認を行い、事故を未然に防

ぎます。

⇒修繕箇所がある場合は、早急に対応しました。保育室の入り口の引き戸の敷居でのケガがあったため、各保育室の敷居の点検を行いました。

(エ) 乳幼児突然死症候群（SIDS）や誤食、アレルギー除去対応、園外保育等のマニュアルを活用し、全体研修会とクラス別研修会を行い事故防止に努めます。

⇒乳幼児突然死症候群、誤食、誤嚥については、乳児クラスで学習会を行いました。アレルギー除去対応については、全体で確認し、対象児がいるクラスで個別対応について行いました。乳児が誤飲するリスクがあるおやつを職員が試食し対策を考えました。園外活動については、散歩が始まる前に各クラスで学習会を行い、注意点等を確認しました。

(オ) 事故・ヒヤリハット報告を迅速に提出し情報共有し、分析することで同様の事故を繰り返さないようにします。

⇒事故・ヒヤリハットは軽微なものも報告し、出勤時に目を通すことで、どの職員が保育に入っても、その園児の状況を把握したうえで保育できるようにしました。

事故を未然に防いだヒヤリハット報告22件、ひっかき、単独の転倒、園児同士の衝突、叩くなどの軽度の事故105件、再受診が必要になったケガが2件ありました。0歳児の事故・ケガが一番多く33件、場所では園庭が一番多く25件ありました。軽微なものもその日のうちに保護者に必ず報告しました。

(カ) 園児にとって過ごしやすく、欲求を満たす環境にするために担任を中心に定期的に検討し、整備します。

⇒子どもの発達にあわせて各クラスで変更しました。0歳児は活発に遊びたい園児、ゆっくり遊びたい園児に分かれて遊ぶことができるように整えました。その際には、担任間で、注意事項やおもちゃの場所などの確認を行いました。

(キ) 大量調理マニュアルに基づいて、安心・安全な食事の提供を行うために給食の委託業者職員と毎月、学習会を行います。

⇒事故防止のため、定期的に学習会を持ちました。アレルギー食については、毎日確認を行いました。他施設での事故の報道があれば、その都度、情報を共有し、同じことが起こらないように注意喚起しました。離乳食のリンゴの窒息事故の報道後、栄養士を中心に再度確認し、保護者にも提供方法を伝えました。

(ク) 設備・環境整備

・ホール、3歳児クラス、事務室のエアコンを更新します。

⇒ホール、事務室のエアコンを更新しました。3歳児クラスは、修繕で対応しました。

2歳児クラスのエアコンは設置後20年経過していたため更新しました。

・3歳児、4歳児、5歳児の部屋の天井扇5台を更新します。

⇒天井に安全に設置できないと判断し中止しました。

・テラスの防水工事、雨水管の修繕を行います。

⇒テラス、西側の屋根を含めて補修を次年度に計画することにしました。

- ・煙探知機など消防設備を整備します。
- ⇒年度内に実施できませんでした。
- ・保育業務システムを更新します
- ⇒4月より稼働し、7月より欠席連絡を保護者がアプリで入力する方法に変更しました。未入力時の欠席が無断欠席と判断でき、保護者への確認が円滑になりました。欠席連絡は事前にわかるので保育体制に反映できるようになりました。
- ・一時預かり予約システムを更新します。
- ⇒4月に稼働しました。請求書、領収書をメールで送信できるため業務改善につながりました。
- ・避難用らせん階段下に園児が入らないように塞ぎます。
- ⇒7月にネットを設置しました。園児がらせん階段に近づくことが無くなり、安心して園庭であそぶことができるようになりました。
- ・園庭の遮光ネットを更新します。
- ⇒9月に更新しました。
- ・電話機を更新します。
- ⇒4月に更新しました。
- ・コピー複合機を新規リース契約します。
- ⇒新規リース契約をしました。FAXをパソコン上で確認するため広告など不要なプリントアウトが無くなりました。

5) 一時預かり事業

- (ア) 年間利用者数の目標を、2,000名以上とします。
- ⇒年間の利用は2045名になりました。3歳児以上の幼児が減少し、1歳児の利用が増えました。
- (イ) 利用される保護者の要望には柔軟に対応します。
- ⇒朝8:30からの利用希望には、在園児のクラスに入ることに対応しました。夏休み、春休み時は幼児の利用が多くなるため、在園の同年齢のクラスに入りあそぶようにしました。
- (ウ) 子育てに関する相談・助言などを積極的に行います。
- ⇒連絡ノートで「叱り方」「寝かしつけ方」などの相談がありました。お迎え時に状況をお聞きし、保護者の悩みに寄り添いながら一緒に考えました。
- (エ) 利用する子どもが安心して保育を受けることができるようきめ細やかな保育を心がけます。また、同年齢の在園児のクラスに入り交流し様々な経験ができるようにします。
- ⇒午前中は3名、午後は2名の担任を配置しました。降園時には、お子さんの様子を丁寧に伝えることで、信頼関係を築きました。
- (オ) 子育て支援担当と連携し、園で行っている子育て支援事業への参加を促し、育児不安などの支援に努めます。

⇒一時預かり利用者に子育て情報誌による情報提供を行い、親子クッキング、リズムであそぼうへの参加がありました。利用時間の延長や利用回数を考慮することで、安心して子育てができ、園が頼れる存在になるようにしました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
0歳	0	9	15	21	9	17	23	15	23	24	31	32	219	203
1歳	43	87	62	52	54	92	81	88	81	82	72	67	861	566
2歳	54	28	64	62	58	63	74	67	68	57	56	63	714	720
3歳～5歳	51	20	3	24	65	9	3	3	27	2	7	37	251	360
合計	148	144	144	159	186	181	181	173	199	165	166	199	2045	
前年度	111	99	125	159	172	136	164	190	179	145	168	201		1849